

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271900258		
法人名	株式会社 セブンワーカーズ		
事業所名	グループホーム天鼓		
所在地	千葉県匝瑳市飯倉台10-15		
自己評価作成日	平成29年9月15日	評価結果市町村受理日	平成29年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成29年10月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・散歩で疲れたように見えるA様、“少し休みましょう”と居室に誘導、ベッドで休んで頂くが、ホールから聞こえる皆様の賑やかな声を聞き“一人は寂しいから来たよ”とレクに参加している等昼は殆ど全員の利用者がホールで過ごされています。
 ・栄養バランスの良い献立を皆で考え、野菜の皮むきなら私、焼ソバ作りはあの方が得意だよと会話も弾んでいます。新米で作ったおにぎり、(自分の好きなおにぎり、自分で作りましょう)”そんなら、大きいの作るよ”と皆様。生活の中からも楽しんで頂けるよう、食事作りを心がけています。ADLの低下が顕著であっても、盛り上げて出来る事をやっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営に関する事、ケアに関する事が理念に基づいて行われていることを、常に職員間で共有しながら実践している。職員は利用者が尊厳をもって自己決定できるように、自立に向けた支援を心がけている。職員がスキルアップしながら、他施設での受け入れが難しい利用者も受け入れており、利用者は穏やかに過ごしていることが確認できた。また、地域との連携が良好で、地域力を活用しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1.ほぼ全ての利用者の 2.利用者の2/3くらい 3.利用者の1/3くらい 4.ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1.ほぼ全ての家族と 2.家族の2/3くらいと 3.家族の1/3くらいと 4.ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1.毎日ある 2.数日に1回程度ある 3.たまにある 4.ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1.ほぼ毎日のように 2.数日に1回程度 3.たまに 4.ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1.ほぼ全ての利用者が 2.利用者の2/3くらいが 3.利用者の1/3くらいが 4.ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1.大いに増えている 2.少しずつ増えている 3.あまり増えていない 4.全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1.ほぼ全ての利用者が 2.利用者の2/3くらいが 3.利用者の1/3くらいが 4.ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1.ほぼ全ての職員が 2.職員の2/3くらいが 3.職員の1/3くらいが 4.ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1.ほぼ全ての利用者が 2.利用者の2/3くらいが 3.利用者の1/3くらいが 4.ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1.ほぼ全ての利用者が 2.利用者の2/3くらいが 3.利用者の1/3くらいが 4.ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1.ほぼ全ての利用者が 2.利用者の2/3くらいが 3.利用者の1/3くらいが 4.ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1.ほぼ全ての家族等が 2.家族等の2/3くらいが 3.家族等の1/3くらいが 4.ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1.ほぼ全ての利用者が 2.利用者の2/3くらいが 3.利用者の1/3くらいが 4.ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	主体はご利用者様の基本理念と行動のベースがある。防災マニュアルと共に全員で考えた今年の目標を壁に貼り、毎朝読み上げ理念を共有し、実践している。	理念は職員が常に目にしやすいところに掲示し、日々の申し送り時に確認している。全体会で共有して利用者主体を目標として、実践につなげるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ゴミステーションの掃除やゴミ0運動には、ご利用者様と参加している。直売所や近くのコンビニへも利用者様と買物にいっている。	地域の祭りや「ごみゼロ運動」に利用者と一緒に参加している。地域の人がホームを訪れることもあり、会話を楽しんだり、農産物の差し入れがあるなど日常的に交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議の時に報告と認知症勉強会を行っている。5月には「八重子のハミング」と言う、家族介護と地域の関わりの映画を見にいきました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月間の皆様の生活についての報告やご家族様ご了解の上、事例に基づいた問題点や援助の仕方についても話し合い、参加した皆様より意見を頂いている。参考になる事を実行している。	運営推進会議は、地域の議員、警察、民生委員、住民、利用者家族、地域包括支援センター職員の参加で、2か月に1回開催している。利用者家族から介護の方法について勉強したいとの希望があり、勉強会を開催したり、介護職員の養成研修を行うことも話し合われた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず出席してもらっている。福祉避難所の件や疑問な点を聞きに行ったりしている。事故の時には報告に行っている。施設ケアマネ会議に参加、市町村での勉強会に出席している。	市が主催している事業所連絡会や施設ケアマネ連絡会に参加している。事故報告、困難事例の報告を行うとともにホームの実情を伝えて、協力関係を構築するようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の定例会議の中で身体拘束の勉強会を行っている。玄関はいつも鍵を開けている。ペットや車椅子での拘束はした事はない。	身体拘束をしないケアについては定例会議での議題として、研修を行っている。夜間以外は鍵をかけない、日々の業務で気づいた強い言葉や、行動についてはその都度、職員間で話し合い身体拘束をしないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	天鼓会議や全体会議等全員で学び、虐待防止に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個人の権利を守る制度について基本理念や概要目的を学ぶ勉強会を設けている。施設外の勉強会に積極的に参加、その内容も参加した職員が全職員に向け、勉強会を行っている。その中で介護に求められる職業倫理役割を十分学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、不安なく入居して頂けるように見学して頂き、事前に重説や契約書、他の説明もし不明な所がないよう問いかけている。解約についても十分な話し合いをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月家族がの来所が多く、常に家族と接し意見や要望を伺っている。運営推進会議には家族の方も参加され、フリートークの時間を設けている。市役所・市議・区長さん等も出席の中で、どんどん意見を話される。施設ではすぐに反映している。	家族の来訪が多く、運営推進会議に参加した家族から食事メニューについての希望が出て、食事会を企画実施した。食事会開催にあたっては食材の寄付もあった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議や天鼓会議があり、職員は気軽に意見を提案している。外出行事の内容や施設内行事の催し、食事メニューなど反映している。会議中に“台所にハエがいた”との意見があり翌日には業者がドアの寸法を測りにきた。	毎月開催している天鼓全体会議は職員全員が発言するように進められている。衛生管理のための設備の改修など職員の提案を受け入れ、改修工事が実施された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人1人が向上心を持って働けるよう、半年に1回表彰の機会を作ってくれている。労働時間では小さい子供をもつ職員には、子供に影響がないように配慮したり、仕事を継続しやすいように工夫してくれている(9時～16時 12時～16時等)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	子供が学校に行っている4時間だけ、入浴介助に出動してもらう等職員の事情に合わせ長期間働けるよう配慮されている。職員の力量を把握し、慣れないケアは先輩職員が指導している。施設内外の研修へのバックアップもある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域多職種連絡会や地域の施設ケアマネ会に参加している。その後に社内研修にて報告をしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人とむきあい時間をかけて、ご本人の心の中にある気持ちもくみ取れるよう、ゆっくりお話を聞く。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が今何に困っているかを聞き、不安に思っている事に対して、介護サービスややり方を説明する。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の身体の事や心の事で問題になっていることは何かと考え、不快な部分を取りのぞけるようにする。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「皆の役にたちたいんだよ」と言ってくれる利用者様にモップを用意し、スタッフと一緒にホールの掃除を、毎朝行っている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様とご家族様が楽しく過ごして頂けるよう面会時には話やすい様な場所作りをする。敬老会には一緒に食事会をした。手話の発表会をするからと家族をよんで、一緒に手話をやった。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の夏祭りを見学、ご近所の皆様が元気で良かった等と、利用者様に声をかけてくれる。	教師をしていた利用者を教え子が訪ねてきたり、外出が好きな利用者のために家族と連携しながら、馴染みがある場所に出かけられるようにするなど、個別の状況に応じて支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご元気な方が他の利用者様の車椅子を押し下さっている。楽しそうにお話されたり、レクでは皆の中心になって手話教室等行って下さる利用者様がいてくれる。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調不良で入院、その後退院された利用者様、何度も御見舞いに行く。目を開ける事ができなくてもスタッフの声がする方に顔をむけ、笑顔を見せてくれる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉で表現する事が難しい利用者様、特に入浴に拒否が強い。気持ちよく入浴して頂けるような事に喜んでくれるのか等皆で話し合い、介助方法を考えている。(注意事項は風呂場の前に貼ってある)	日頃の関わりなかで、常に利用者の声に耳を傾けるように努めている。聴きとった利用者の思いは、朝、夕の申し送りや連絡ノートに記載して職員間で共有している。利用者の思いを実現できるように、職員間でアイデアを出し合い、支援の場で試行しながら、利用者主体の支援の実践に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人らしく生活して頂けるよう、家族・本人より時間をかけゆっくりお話を聞く。今まで利用されていた施設やケアマネ等より情報の提供をしてもらう。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	皆様との行事に参加したくない利用者様は、居室でスタッフと過ごす。洗濯物たたみや野菜の皮むき等その人の出来る事を行ってもらう等その人の力に合わせ、強制はしないが、会話がはずんでいるとひとりで参加している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	飲み込みが難しくなった利用者様、それでも普通食を食べたいと言う。食べたいものを危険なく食べて頂けるよう、本人・家族・スタッフ一緒に何度も話し合い、食事中は必ず付き添い見守るとの計画を作成。	アセスメントをもとにカンファレンスで話し合い、ケアプランを作成している。サービス内容についてはモニタリングで検証し、必要に応じて見直している。利用者の状況を記録する生活日誌には、ケアプランの要点を記載しており、職員は支援の根拠を理解して支援にあたっている。家族の要望は面会時などに聴きとっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活日誌に個々の注意事項を記入や達成目標を記載、モニタリングを毎日おこなえるように工夫。誰でもがすぐに分かる様になっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調に合わせて散歩や買い物、洗濯物干しや野菜の皮むき等の作業、皆の役に立ちたいとおしゃってくれる利用者様にはモップを用意、スタッフと一緒にホールの掃除をする等その時々状況にあった介護を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加している。地域で民謡、琴、踊り、バンド、マジックショー等を行っている方の慰問を受けている。近くの公園へ散歩したり、スーパー買物に出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医との連携があり、月1回往診してくれる。必要時検査や指示をもらっている。電話での相談も気軽にうけてくれたり、判断してくれて時に駆けつけてくれる。	利用者は月1回協力医による訪問診療を受けている。協力医とは連携がとれており、電話での相談や急な往診なども対応が可能である。また、看護師が週3~4回勤務しており、利用者の状況に応じて、食事や入浴介助の方法などについて、アドバイスをもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	社内看護師にはいつでも相談や指導を仰いでいる。毎朝の申し送りでの情報交換や職員用ノートによる伝達を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医の連携により情報交換や医療相談が出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴い、医師や家族とGHとで話合って、医師から終末期の状態の説明を聞く。家族もどんなかわりが出来るかを話してくれるので、一緒に介護する。家族も最後の1週間位を泊り込みしてくれる。親の最期の時間を大切に過ごせるようスタッフは支援している。	重度化や終末期の対応指針にそって、契約時に説明し同意を得ている。看取りを希望する場合は家族の協力についても同意を得るようにしている。食事が摂れなくなってきた段階で、家族、医師を交えた話し合いの場を設けている。家族が泊まり込んだり、希望があれば入浴介助を行うなど、チームで連携して支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1会の定例研修会にて応急手当や初期対応の訓練を行っている。日常的には看護師が一人一人の対応の仕方を常時教えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練、火災訓練には消防署が来てくれてスタッフ全員が参加している。避難方法や初期動作を身に付けている。隣接するご近所の方から支援も頂いている。	避難訓練は消防署の立ち会いのもと、年2回実施している。訓練では、利用者も参加して避難用すべり台による避難や、消火器の使い方の確認などを行っている。地震などを想定した訓練も実施し、生活用の水についてはペットボトルに備蓄している。訓練には近隣住民も参加しており、地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ぞんざいな言葉を使ったりしない。礼節と尊厳の心を持って接している。排泄等そっと声掛けして誘導している。	理念でもある「礼節の心を持って尊厳のある人生を支える」支援に取り組んでいる。不適切な言葉遣い等があった場合はその場で注意しあえる環境があり、理念を意識しながら支援を実践している。排泄時は必要な時以外はトイレに立ち入らないなど、プライバシーにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の話を良く聞き対応出来る時はすぐ行動する。○○やりたいと言う時や○○食べたいなあ、はほとんど実行するようにしている。チラシ広告なども心が動くものなので話を楽しんで自分の思いも表出してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が、今、何を話したいのかを考え個別ケアを大切にしている。わだかまりがあって納得されない時はほとんど付き合っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	隣の奥様が美容師なので、来てくれて皆と話をしながらカットしてくれる。その他家族が連れて行ってくれる場合、美容院が迎えに来てくれる等がある。今日、着る服や入浴後に着る服を一緒に選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ、皮むき、盛り付けなど楽しく会話しながら行っている。誕生日のケーキ、お好み焼き、焼きそば、いなり寿司などいつも皆で作っている。	皆で食事を楽しむことを大切にしている。献立は利用者の意見を聞いて、旬の食材なども取り入れて決めており、利用者も野菜の下ごしらえや盛り付けなど、できることに参加している。リクエストによりカップ麺を昼食にしたり、焼きそばやお好み焼きを作って食べることもあり、食事が楽しみとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	誤嚥の心配な方はトロミをつけ、コレステロールの高い方などは量や質を考え、その人に合った食事を用意している。肉を食べない人は別メニューを作っている。水分が不足している場合はあらゆる形で飲んでもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生士に指導して頂き、利用者個々に対応している。口腔内殺菌の為さましたお茶を作っておき、うがいもして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿、排便のメカニズムを職員は個別に理解している。トイレに移動し排尿姿勢を整える事の重要性を理解し定時のトイレ誘導(移乗)を行っている。1人1人の排泄パターンを理解出来ている為オムツの使用量も減らすことが出来ている。	個別の排泄状況に応じて、トイレ誘導などの介助を行っている。排便時には腹圧がかかるような姿勢を保持するなど、自然な排泄につながるよう支援している。個別の排泄パターンを理解しながら支援しており、オムツからリハビリパンツ、パットを併用しての布パンツと段階を経ながら自立につながった事例もある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く取るよう提供し食事にはフルーツヨーグルト、牛乳、その他ヤサイジュースなどを提供し、毎日の歩行や腹部マッサージをしている。便秘2日を越えると座薬など用いて、日中に出すようにしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人1人の希望により外出から帰った際や身体を動かした後気持ちよく入浴が出来るよう声かけをしている。応じてくれない人は、何度も声かけし失禁等ひどく汚れた時は、即お風呂場にお連れしている。	入浴は1日おきに実施しており、入浴しない日は足浴で対応している。浴室には入浴時間や、入浴方法など利用者個別の希望や留意事項の一覧が掲示されている。利用者は歌を唄ったり、職員と会話を楽しみながら、入浴を楽しんでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団干しやシーツ交換など常に清潔を心がけている。昼寝をする人には、いつでもできるようにしておく。室温調整をしながら掛け物を工夫している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は看護師と担当者がくすりの効能について確認している。薬担当を決め管理者が確認し、飲む前に再度確認しながら飲んでもらっている。服薬させた人が印を押す。薬が変わった時は体調を観察し医師に連絡をしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯物干し、お盆拭きなど役割を持ってもらっている。洋裁や編み物など得意とする生活歴があっても実際には集中力も欠け出来にくい。一般的だが、出来る家事の手伝いをしてもらおう。さまざまなレクや外出などで気分転換をしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	皆さん戸外が好きなので、散歩等の外出支援は良く行われている。プランターに花を植えたいという希望から花苗を購入外出したり外気を感じて「どっか出かけたね。」の言葉に車をだして小さな買物に良く出かける。	天気が良ければ、毎日近くの公園などに散歩に出かけている。公園ではビニールシートを敷きお茶を飲んだり、近隣の子供たちとの触れ合いを楽しんだりしている。近所の野菜直売所や、弁当が食べたいとの利用者の要望でコンビニまで買い物に出かけることもあり、利用者の希望にそった外出の支援に努めている。	職員は利用者の希望に添いながら、積極的に外出する機会を設けている。車椅子利用者が増えるなか、スーパーや遠方への外出も検討している。家族会とも連携して、家族の理解や協力を得ながら、さらに利用者の行動の幅が広がるような取り組みに期待したい。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒にコンビニや生産者直売所に出かけ自分で買物が出来るように、サイフをお渡しする。買いたい人は買っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自宅へ電話をしたいという希望で自宅にかけてさしあげる事もある。自分でかけられる人は携帯を持っている。(3名) 手紙も書ける人には機会を作り送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わって頂くような時期の花を飾ったり、行事計画(敬老会等)室内装飾や思い出の写真を貼り皆で思い思いの会話を楽しんでいる。机の上の花は食べられてしまうので、今は置いていないが、ベランダには置いている。玄関やカウンターには置いている。	日中はリビングで過ごす利用者が多く、テーブルを囲んで歌を歌ったり、ゲームをしたりして過ごしている。リビングには畳のスペースがあり、昼寝をする利用者もいる。リビングは掃除が行き届いており、職員の歩く音などにも配慮するなど、落ち着いた環境で過ごすことができるよう心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	あちこちに椅子やソファを配置して時折使用している。皆で楽しむ時間はホールで唄やゲームをし、ゆっくり習字をしたい時は自室で楽しまれている。ベッドに横になってTVを見ている方もおり、それぞれが思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が写真を持参したりスタッフが写真を飾っている人もいる。使い慣れた物を持ってきている人もいるし、買物に行き、ご自分の好みの物を購入して使用している。ふだん居室よりホールにすることが多い方もいる。	居室は利用者の好みに応じて、居心地よく過ごせるようにしている。使い慣れた机やパソコンなどを持ち込んでいる利用者もいる。居室内には温度計、湿度計を設置しており、換気にも配慮して快適に過ごせるよう心がけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の出来ること1人1人理解しており得意なことを生かすように心掛けている。花の水かえ、折り紙でくす玉作り、色塗り、出来上がりを自分の希望で居室に飾ったり、通路に飾り他入居者とみて楽しまれている。		